

【2018年春のPhotoアルバム】

2018 Walk
04

古代たたら郷 西播磨「佐用」の春 2018 2018.3.31

春の妖精「カタクリの花」と佐用の一本桜 漆野の「大糸桜」を今年も訪ねました



1. 漆野 光福寺一本堂の一本桜 大イトザクラ
2. 東徳久カタクリの里殿崎のカタクリ
3. 旧三日月町 弦谷のカタクリ
4. 旧三日月町 志文川の桜堤



愛らしい春の妖精「カタクリの花」
花言葉は「初恋」・「寂しさに耐える」
陽が陰り始めた山の斜面で
まだ冷たい風に立ち向かって身をふるわせる
私の一番好きな花の一つ



街や村の近くで、そっと寄り添い
見守ってきた「一本桜」
一本だからこそその青空に映る美しさ
堂々とした姿にも 思い入れがある
「一本桜」への思いも ひとそれぞれ
ドラマがある



春の訪れを待ちかねて

毎年 千種川が流れ下る 西播磨の古代たたら郷の山郷佐用へ
出会いに行く「カタクリの花」と「一本桜」

今年も出会えてうれしい2018年の春 元気をもらって 思いも新た



満開の桜が彩る山崎断層を抜けて切窓峠を越えて山郷佐用へ 2018.3.31.

今年は春の花が例年になく一機に咲いて「三春どころか四春??・五春??」に神戸の桜満開 随分早い猛スピードの春に、昨年より随分早いのですが、春の妖精「カタクリ」と満開の桜が彩る千種川沿いの古代たたら山郷を訪ねました。

今年は家内の運転で 満開の桜が彩る山崎断層を抜け切窓峠を抜けての山郷佐用へのドライブでした。

春の到来 待ちかねた古代たたら山郷

千種川が流れ下る山間 徳久殿崎 & 旧南光町鶴谷に咲く春の妖精「カタクリの花」と満開の花をつけた枝を大きく広げて、集落を見守る立堂々とした姿に魅了される佐用光福寺一本堂の一本桜の「大系桜」の元気な姿 届けます。毎年楽しみな2018年 佐用の春のアルバムです。

1. 漆野 光福寺一本堂の一本桜 大イトザクラ



千種川の下流側から左手 漆野本村への入口の郷を眺める 2018.3.31

下野から千種川は山間を大きく西へカーブして、佐用徳久地区に入る。中国道の高架橋をくぐると漆野の集落。東の本村と西の段集落が川の両側に。大系桜のある本村の集落は奥の山の中に隠れている。どんな姿で大系桜が迎えてくれるのか、期待がいっぱい。川岸から本村の集落に通じる谷あいを取り込む狭い曲がりくねった坂道を少し登ると視界が広がり、集落の中へ。高台集落の一番奥の高台に光福寺があり、満開の花をつけた大系桜が見えた。一年ぶりの出会いです。



漆野の集落へ曲がりくねった坂道を上ると集落の一番上の高台に桜満開の光福寺が見える



千種川に沿う丘の上に広がる漆野の郷本村集落 2018.3.31.

集落への狭い道を集落に入ってく、家並みの中右手高台に光福寺が見え、満開の花をつけた大糸桜の美しい姿が見える。



2018.3.31. 漆野 光福寺の一本桜 大糸桜

2018.3.31. 漆野 光福寺の一本桜 大糸桜



2018.3.31. 漆野 光福寺の一本桜 大糸桜

佐用 千種川が流れ下るたたら^の里 漆野の一本桜
播磨一本堂(光福寺)の大糸桜 佐用町 東徳久 漆野

古代から開けたたたら^の山郷 宍粟と佐用を結ぶ県道53号の街道筋。
下三河のT字路から、北の千種から南へ三河谷を流れ下る千種川沿いに 少し西へ入った旧南光町東徳久地区の漆野。
その本村地区にある光福寺は1696年に再建された時に1本のケヤキから建てられたため、近隣の人たちから「播磨一本堂」と呼ばれるようになった。

この再建を記念して境内に植えられた枝垂れ桜は、樹齢300年、根回り8m、高さ13mで、毎年春になると、枝一杯に糸を垂らしたような花姿で、鐘楼を包み込むように花を咲かせる。
その姿は華麗 幻想的で「播磨一本堂の大糸桜」と呼ばれる西播磨一の一本桜となった。特に垂れ下がった枝の長さがひととき美しい。

千種川が流れ下るこの漆野周辺は古代のたたら製鉄地帯で、早くから開けた街道筋。春になると漆野集落で満開の花をつけ、華麗な姿を見せる糸桜はこの街道筋・漆野集落のシンボルであり、誰言うことなく「播磨一本堂の大糸桜」と呼ばれ、親しまれ、今もこのたたら^の山里・街道筋のシンボルとして守り継がれている一本桜である。
毎年春 カタクリの花が咲く頃 山郷佐用を訪ねるうちに、この糸桜の美しい姿に出会い、春佐用を訪ねる楽しみの一つとなりました。
もっとも カタクリと漆野の大糸桜が満開の花をつける時期が異なり、両方を一気に見られることは少ないのですが、今年もまた、満開の素晴らしい大糸桜の姿を見ることができました。



古代たたら^のの里に咲く一本桜
佐用漆野 播磨一本堂(光福寺)の大糸桜



2018.3.31. 漆野 光福寺の一本桜 大糸桜



2018.3.31. 漆野 光福寺の一本桜 大糸桜



2018.3.31. 漆野 光福寺の一本桜 大糸桜



2018.3.31. 漆野 光福寺の一本桜 大糸桜



2018.3.31. 漆野 光福寺の一本桜 大糸桜

2. 東徳久カタクリの里殿崎のカタクリ



漆野から南へ下って、上流側の下野・漆野 たたら郷を
流れ下ってきた千種川 2018.3.31.



漆野から千種川に沿って 山間を少し下ると、南北を山に挟まれて、千種川の南側の可岸段丘に田園が広がる徳佐の中心部。その入口 千種川と山に挟まれた狭い場所に広がる殿崎の集落で狭い集落内の道を抜けた山裾の傾斜地に、カタクリの群生地が広がっている。

交通の便が悪いので、あまり知られていないカタクリの郷。それだけに静かで、ゆっくりカタクリの花に出会える好きな場所。去年は訪れた時期が遅れ、元気に咲くカタクリが少なかったのですが、今年はどうだろうかと期待一杯で、千種川沿いを下る。

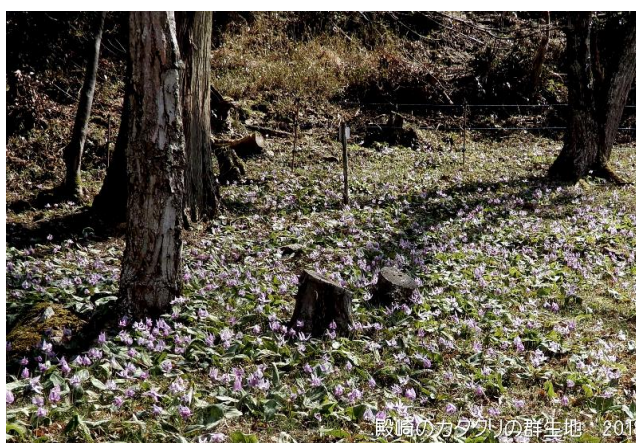


殿崎の南 徳久 林崎から上流側 殿崎の山裾を眺める 2018.3.31.



集落のすぐ横の山裾斜面に広がる殿崎のカタクリの群生地全景 2018.3.31.

誰も姿が見えず、一瞬今年もおそかったのか・・・と不安にかられましたが、日陰になった奥の斜面地に紫色のカタクリの花が斜面一杯に広がり、近寄るとまっすぐ立ち並んで、春の風に身を震わせているのが、まじかに見える。うれしい出会いです。



殿崎のカタクリの群生地 2018.3.31.



殿崎のカタクリの群生地 2018.3.31.

春の妖精 カタクリの花

8年間地中で暮らして、花を咲かせる。

氷河期の生き残りの花

花言葉は 初恋・寂しさに耐える

わたしにはもう一つ

春まだ冷たい風に 真っすぐ顔を向け、

身を打ち震わせて、立ち向かう姿に

心ゆさぶられ、一番好き

毎年元気をもらうカタクリの花

今年も沢山のカタクリの花に出会えました



カタクリの花に近寄って カメラを向けている人によると、「カタクリの花の花弁の中に桜の花が潜んでいる。

その姿が一番美しく、それを狙って、カメラを向ける。

カタクリに春を見る」と聞く。

模様があるのは知っていましたが、その模様を桜とみるのは知りませんでした。

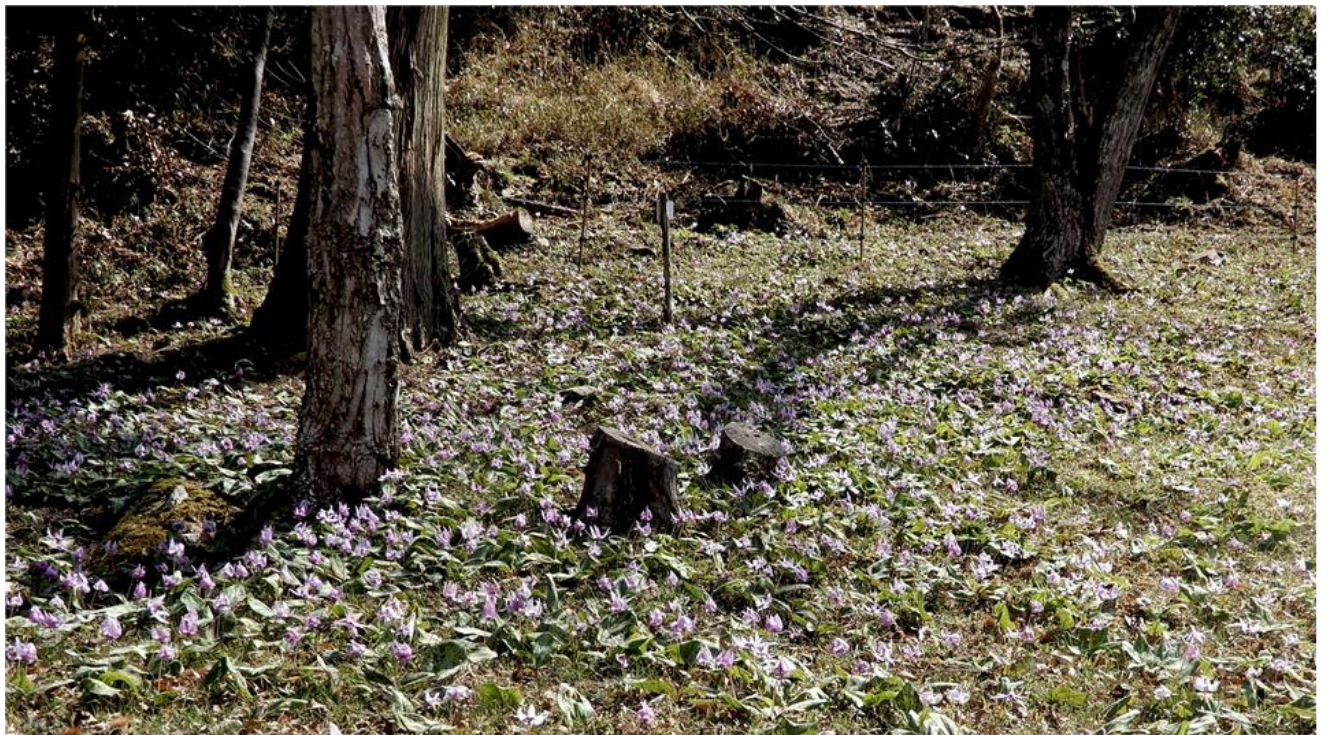
後で、知ったのですが、「蜜標」と呼ばれ、蜜のありかを虫に教えるためとされる模様で 桜の花の形とみたとてるといふ。

初めて聞く話にカタクリの花をのぞき込む。そういわれれば、花弁の中の模様が桜に見える。

昨年夏 京都虫の眼展 可視光領域が狭く、赤がよく見えない虫の眼。虫は花粉などの色がよく見え、それに導かれて、密にたどり着くと知りましたが、この「蜜標の桜」虫たちにはどんなふうに見えるのでしょうか??? おそらく 花の奥に潜む「桜の花」がくっきり見えて、「密」に導かれるのだろう。

また、ひとつ新しい見方を教えてもらいました。

佐用のカタクリの里 徳久殿崎の春の妖精「カタクリの花」2018





殿崎のカタクリの群生地 2018.3.31.



殿崎のカタクリの群生地 2018.3.31.



殿崎のカタクリの群生地 2018.3.31.



殿崎のカタクリの群生地 2018.3.31.



殿崎のカタクリの群生地 2018.3.31.



殿崎のカタクリの群生地 2018.3.31.



殿崎のカタクリの群生地 2018.3.31.



殿崎のカタクリの群生地 2018.3.31.

殿崎の里巡れば花がたり



山の斜面を埋め尽くす元気なカタクリ。
今年は元気で美しい姿のカタクリにたくさん出会えた。
また、来年と声をかけて、群生地をあとにする。!



殿崎の南 徳久 林崎から上流側 殿崎の山裾を眺める 2018.3.31.



殿崎の南 徳久 林崎若鮎ランドから上流側を眺める 2018.3.31.

殿崎から千種川沿いに少し下ると、毎年夏 ひまわり畑が作られる広い河岸段丘 徳久林崎の若鮎ランド。

この林崎から、南側の山並みにある卵の山峠を越えれば、西で千種川と合流する志文川が流れ下る旧三日月町地区。

目指すカタクリの里 弦谷 そして志文川に並行して姫新線が走る有名な写真スポットの桜堤がある。

弦谷のカタクリの里の山裾では 食事ができないので、桜満開の田園風景が広がる林崎若鮎ランドの千種川桜堤で昼食に



佐用徳久 林崎 若鮎ランドの千種川 桜堤で 2018.3.31.

3. 旧三日月町 弦谷のカタクリ

うれしい2018年春の佐用のカタクリ walk 毎年たずねるもう一つの群生地 弦谷へ
林崎から東へ卯の山峠を越えて旧三日月町へ志文川が流れ下る旧三日月町 カタクリの里弦谷
そしてそのすぐ近く志文川の桜堤へも寄ってかえろう



林崎から南へ 旧三日月町むへ山越えの卯の山峠 2018.3.31.

林崎から南へ 旧三日月町むへ山越えの卯の山峠 南に志文川沿いの桜堤が見えているが、峠を下って、山に隠れている左側に折れて、志文川を渡って、正面に見える山並みの入口のところが、カタクリの里弦谷である。



カタクリの群生地 旧三日月町 弦谷 2018.3.31.



カタクリの群生地 旧三日月町 弦谷 2018.3.31.

三日月に入って 姫新線に沿って東に向かい、三日月のT字路で、南へ志文川を渡り、スプリング8のある光都・相生へ向かう山越えの幹線道路の山間へ入る入口。川の右手住宅の奥の山裾の山の斜面の雑木林が群生地である 毎年春 佐用のカタクリの花を訪ねるところ。

午後には日陰になる急な傾斜地。冷たい風に身を震わせて立ち向かう姿が美しい一番の地。

今年とはどんな姿のカタクリにてあえるだろうか・・・



旧三日月町 弦谷 2018.3.31.



カタクリの群生地 旧三日月町 弦谷 2018.3.31.



カタクリの群生地 旧三日月町 弦谷 2018.3.31.

ひっそりとした傾斜地の山影で、春まだ冷たい風に 真っすぐ顔を向け、身を打ち震わせて立ち向かう
弦谷のカタクリの姿に 毎年元気をもらう 一番好きなカタクリの姿です



カタクリの群生地 旧三日月町 弦谷 2018.3.31.

佐用のカタクリの里 旧三日月町弦谷の春の妖精「カタクリの花」2018



カタクリの群生地 旧三日月町 弦谷 2018.3.31.



カタクリの群生地 旧三日月町 弦谷 2018.3.31.



カタクリの群生地 旧三日月町 弦谷 2018.3.31.



カタクリの群生地 旧三日月町 弦谷 2018.3.31.



カタクリの群生地 旧三日月町 弦谷 2018.3.31.



弦谷の群生地で 数株しかみられぬ白いカタクリの花
今年ではあえるだろうか? どうだろうかと斜面を探す。
元気に風に立ち向かっている姿を見ることができました。
出現率 一万分の一程度だという。
ことしうれしい出会いです。
本当に今年はラッキー 数多くの元気な姿に出会えました。



カタクリの群生地 旧三日月町 弦谷 2018.3.31.



カタクリの群生地 旧三日月町 弦谷 2018.3.31.



カタクリの群生地 旧三日月町 弦谷 2018.3.31.



カタクリの群生地 旧三日月町 弦谷 2018.3.31.

4. 旧三日月町 志文川の桜堤

弦谷から、そのまま南へ山を抜ければ、光都を通って、竜野・相生へ抜けられるのですが、志文川沿いの桜も見たくて、志文川沿いに戻る。

お目当ての場所は、昨年念願の並走する姫新線と志文川土手の桜堤の写真が撮れた、志文川沿い久保橋横の末広踏切。

佐用の桜の写真スポット。



今年もそんな景色を期待して行ったのですが、上下の電車が通過したところで、2時間近く待たねばならないと聞き、あきらめ、志文川土手の桜堤を散策して、戻ること。





旧三日月町 志文川沿いの桜堤 旧三日月町久保 2018.3.31.



春の妖精「カタクリ」の花
カタクリの里 弦谷・殿崎で

志文川の桜堤 宝蔵寺で

たたら山里西播磨佐用に
2018春を訪ねる 2018.3.31.



古代たたら山里佐用を流れ下る千種川



たたら山里漆野の一本桜「大糸樹」

愛らしい春の妖精「カタクリの花」
花言葉は「初恋」・「寂しさに耐える」
陽が陰り始めた山の斜面でまだ冷たい風に
立ち向かって
身をふるわせる 私の一番好きな花の一つ
街や村の近くで、そっと寄り添い見守って
きた「一本桜」もまた、思い出がある
「一本桜」への思い出もひとそれぞれ
ドラマがある

春の訪れを待ちかねて 会いに行く「カタクリの花」と「一本桜」
今年も出会えてうれしい2018年の春 元気をもらって 思い出も新た
また、来年です